

安全最優先を徹底し、令和最初の夏を無事故無災害で乗り切ろう！

ご安全に。加盟組合・構成組織、県本部・県センターの皆さん、そして全ての働く仲間の皆さんの連日のご奮闘に心より敬意を表します。

本日7月1日より「安全衛生対策強化月間」がスタートしました。全ての事業所・職場そして現場において、安全ビラの配布や安全集会の開催を通じ、安全最優先での行動徹底とゼロ災にむけた意志結集がなされているものと思います。

また、全国的には「令和元年度全国安全週間」も始まりました。「新たな時代に P D C A みんなで築こう ゼロ災職場」はこの安全週間のスローガンです。

昭和3年からスタートした「全国安全週間」も今年で92回を迎え、まさに働く者の命と健康を守り、日本の産業・企業の発展に貢献してきた運動であります。スローガンについても昭和3年から掲げられており、昭和20年から35年までの期間を除いて現在まで、毎年運動の推進を目的に設けられています。

そのスローガンの変遷を眺めると、「みんなで」という言葉が目立ちます。いつの時代も安全文化は「みんなで」創り上げるもの、まさしく労働運動と同じであります。

【安全週間の歴代スローガンは、中央労働災害防止協会のHPで閲覧できます。

<https://www.jisha.or.jp/campaign/anzen/slogan.html>】

5月17日に厚生労働省から「平成30年労働災害発生状況」が発表されました。

平成30年における日本全国での労働災害に起因する死亡者数は、909人となり、過去最も少ない結果となりました。しかしながら、休業4日以上之死傷者数は127,329人と前年より6,869人増えています。死亡災害の型別では、基幹労連の傾向と同じく「墜落・転落」が一番多く全体の28%、また、「挟まれ・巻き込まれ」も12%を占め、両者で全体の40%となっています。この2種の災害が完全に撲滅されていれば、日本全国で340人の働く仲間の命が救われたこととなります。

基幹労連においても、ここ数年休業4日以上之災害が増加傾向にあり、死亡災害の原因も約70%がこの2種の型別となっています。見方を変えれば、類似災害である「墜落・転落」・「挟まれ・巻き込まれ」は、その発生メカニズムと対策にも多くの共通点があるはずで、全ての組織において、基幹労連として取りまとめた尊い教訓である災害事例CD-ROMを労使で活用し、災害撲滅にむけて徹底した取り組みを展開されているものと思いますが、今一度、安全衛生対策強化月間を機に、類似災害撲滅にむけた取り組みの強化と徹底をお願いします。

新時代、令和最初の夏を無事故無災害で乗り切ろう！

挨拶は「ご安全に」、仲間の顔を見て「ご安全に」、帰宅する際も「ご安全に」。

自分自身の安全確認はもとより、仲間の安全を想い、心を込めて「ご安全に」。

2019年7月1日  
日本基幹産業労働組合連合会  
事務局長 弥久末 顕